

11
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1

九四式拳銃取扱法案
蘇軍「サカロ」式自動小銃説明書

3-1111-22
Copy 1959

国立公文書館	
分類	() ()
配架番号	3 A
	14
	23-14

39

九四式拳銃取扱法案



陸昭
軍和
技十
術年
本四
部月

1935

九四式拳銃取扱法目次

總説	1
第一篇 構造、機能	1
第一章 銃	1
第一節 銃身又附隨品	2
第一款 銃身	2
第二款 筒子	3
第二節 銃筒又附隨品	3
第一款 銃筒	3
第二款 照星	4
第三款 標坐ばね	4
第三節 銃床又附隨品	5
第一款 銃床	5
第二款 引鉄	6

第四章	各部ノ機能	16
第三章	彈倉感	12
第二章	屬	13
第一章	懸	13
第二章	綑	13
第三章	袋及附隨品	13
第一章	囊	13
第二章	同	14
第三章	彈藥ノ裝製	14
第一章	彈	14
第二章	實	15
第三章	紙	15
第四章	裝製	15

第三章	彈倉止	6
第四章	逆	7
第五章	安全栓	7
第六章	床	8
第七章	安全子	8
第八章	擊	8
第九章	銃	9
第四章	遊	9
第一章	圓筒	9
第二章	抽筒子	10
第三章	擊	10
第五章	彈倉及附隨品	11
第一章	彈倉	11
第二章	受筒	12

第一節	彈倉ニ貫入ノ構造、抽脱	16
第二節	彈倉挿入	16
第三節	第一發裝填	17
第四節	發射	18
第五節	射撃終了ト空彈倉ノ離脱	19
第六節	空倉裝置	19
第二篇	取扱	20
第一章	分解結合	20
第一節	普通分解、結合	20
第一款	普通分解	21
第二款	普通結合	22
第二節	特別分解、結合	24
第一款	特別分解	24
第二款	特別結合	26

第二章	取扱上ノ注意	29
第三篇	保存	32
第一章	手入れ	32
第一節	日常手入れ	32
第二節	保管後ノ手入れ	34
第三節	収納間ノ手入れ	35
第二章	整納	35
第三章	検査	36
附圖		
第一	全体	
第二	部品	
第三	部品	
第四	十四年式拳銃彈藥、擬製彈	
第五	撃發前ノ銃縦断面	

第六 擊發時ノ銃縱断面

第七 擊發後ノ銃縱断面、擊發後逆鉤ノ利用縱断面

第八 銃操作要領

九四式拳銃取扱法目次終

九四式拳銃取扱法

總説

第一 銃身ノ被衝後坐ノ反動利用式半自動裝填拳銃ニシテ
銃及屬品ヨリ成ル

第二 主要ナル重量左ノ如シ

銃(除彈倉)	六五〇瓦
彈倉	七〇
實包六發在裏	一三五
懸	三〇
費(鋼材)	二六〇
公 桶(彈倉懸備共)	一三五〇

第一篇 構造、機能

第一章 銃(附圖第一、第二)

第三 銃身、被筒、銃床、遊底、及彈倉ノ主要部分ヨリ成ル

第一節 銃身及附隨品

第四 銃身及門子ヨリ成ル

第一款 銃身

第五 口徑八兆、腔鑄石轉六條トシ十四年式拳銃實包ニ道
應ス後端下面、ニ突起部間ヲ門子ノ鉤スル空トシ且前方
突起部ハ後面中穴、段部ニヨリ銃身後坐ノ際引鉄鉤子ヲ
壓シテ之ヲ沈下セシメ逆鉤トシ鉤止ヲ解キ引鉄ヲ握リメ
ル儘逆鉤ヲシテ撃發ノ準備姿勢ニ復歸セシムルノ部トス
又前方突起部上方ノ兩側ノ孤削部ハ銃床ノ復坐ばね懸坐
部ニ對スルモトス

第二款 門子

第六 銃身及銃床ノ空ニ裝セラレ銃身後坐ノ際後上方ノ斜
面ニヨリ後方ニ降下シ銃身復坐ノ際ハ前下方ノ斜面ニヨ
リ前方ニ上昇ス

第二節 被筒及附隨品

第七 被筒及照星、復坐ばねヨリ成ル

第一款 被筒

第八 銃身及被筒ヲ包ミ照星、復坐ばね及同環ヲ附隨シ之
ヲ分シテ被筒ニ連結シ銃床ヲ滑走シ得ル如クナシアルヲ
以テ圓筒ト共ニ後坐シテ圓筒ヲ伴ヒ復坐ス筒内前端ノ
鍔ハ復坐ばねノ受ニシテ下面ノ燕尾形準梁ハ銃身ノ滑走
用トシ其後方ハ之ヲ開キテ銃身ノ通路トナス此下面中央

ニ在ル兩凹溝ハ閂子ノ鉤部トシ同兩側部ノ段部ハ被筒後
端ノ停止部トス後端ニ近キ兩側ノ長段部ハ銃床ノ被筒後
端至用準梁トス又同部ニ在ル長段部ハ圓筒ト被筒トヲ結
合スハキ圓筒駐栓孔トス上面中央ノ長窓ハ打殼藥莖ノ蹴
出窓トシ前方上部ニハ燕尾溝ノ照壁坐ヲ設ク

第二款 照壁

第九 坐部ノ燕尾ヲ以テ照壁坐ヲ嵌裝ス

第三款 復坐ばね

第十 圓筒ニ纏卷シ前端ハ被筒ニ後端ハ復坐ばね覆ニヨリ
テ受ケ其彈發力ニヨリ圓筒、閂子、被筒及銃身ヲ復坐セ
シムルノ用ニ使ス

第十一 復坐ばね覆ハ復坐ばねノ後端ヲ受クルモノニシテ

兼テ蹴出窓ニ於ケル銃身及復坐ばねノ防塵用トス

第三節 銃床及附隨品

第十二 銃床及引鉄、彈倉止、逆鉤、安全栓、床把、安全
子、擊鉄蹴子ヨリ成ル

第一款 銃床

第十三 上方内部ハ銃身、閂子、被筒、遊底及擊鉄ノ室ト
シ之ヲ滑走溝ヲ成形シ下方ハ前方ヲ用心鉄、後方ヲ握把
部トシ握把部ノ内部ヲ彈倉室トス前方ノ燕尾溝ハ被筒準
梁ノ滑走溝トシ中央、() 字形凸起部ハ長窓ばね覆ノ坐ト
ス直後ノ深キ溝ハ前後ノ縱溝ヲ銃身後復坐ニ於ケル銃身
下方ヲ起部ノ通溝トシ横溝ノ斜溝ハ閂子ノ昇降用トス本
部位ノ測方ハ閂子受被ヲ以テ之ヲ被フ後方上部ヲ「ア」

レ 受トナシ内部ハ被筒及圓筒ノ滑走溝ト被筒ノ準梁ニ應ル準溝ヲ刻シ上面ニ照門ヲ設ケ後端部ニハ懸紐止ヲ附番ス

第二款 引鉄

第十四 圓筒突起部室ニ通スル後室ニ軸ヲ以テ裝セラレバ其後部中穴ノ孔ニ嵌メ他端ハ銃床ニ設ケタル孔ニ裝入ス後方下面ノ小溝ハ安全子ノ鉤ナル部トス上方隆起部ニハ縱溝ト縱孔ヲ設ケ鉤子ヲ裝着ス鉤子ニハばねヲ裝シ活筒トナシ且栓ヲ挿シ以テ耳トス

第三款 彈倉止

第十五 彈倉ヲ駐止シ兼テ安全子ノ軸トナス吻合ヲ確實ナラシムル爲メばね及蓋螺ヲ裝シ活筒トナス

第四款 逆鉤

第十六 軸ヲ以テ銃床ノ左側ニ設ケヌル室ニ挿入シ前端ノ軸部ニハ前面ニ斜溝ヲ設ケ引鉄鉤子ニ鉤ス軸部ノ尖端ニハばねヲ裝シ引鉄鉤子カ沈下シタルトキ逆鉤ヲ復位セシムル爲メトク後方外部ノ段部ハ安全栓ニ鉤スル部トシ後端部ニハ擊鉄ニ鉤スヘキ鍵部ヲ設ク

第五款 安全栓

第十七 耳ヲ有スル軸ニヨリ銃床後部ノ軸孔ニ挿入シ把部ニハばねトシ之ニ摺ミ又駐止用筒ヲ設ケ其姿勢位置ヲ示スヘキ文字「バ」ヲ安レテ銃床ニ刻ス「安」ニ一致セシムルトキハ逆鉤ヲ遠リテ擊鉄不能ナラシム即チ逆鉤ニ對スル安全裝置トス

第六款 床 把

第十八 左右各一ヨリ成リ銃床把部ニ上頭及下方ノ小把
ヲ堅定ニヨリ装着セラシ同部ヲ閉鎖スルト共ニ外面ニ「
」レツト」ヲ附シ握リヲ便ニス

第七款 安全子

第十九 彈倉止ヲ以テ用心鉄ノ後方ニ装着セラレば前
下方ニ装シアルヲ以テ其前嘴ハ引鉄ノ孔ニ鉤シ後端部ヲ
常ニ彈倉室ニ壓出ス

第八款 擊 鉄

第二十 軸ニヨリ銃床後部ノ室ニ裝セラレ後面ノ孔ハばね
ノ受ニシテばねノ一端ハ銃床ノ孔ニヨリテバネヲ三割ニ牽
テル準米ハ後部ヲ成シ後方ニ壓シタルトキ逆動ニ鉤スル

部トス頂部ニハ滑輪ヲ設ケ圓筒ニヨリ後方ニ壓スル際之
力摩擦ヲ減シ圓筒ノ後退ヲ容易ナラシム頭部前面ノ凹部
ハ擊鉄ノ打撃面トス

第九款 蹴 子

第二十一 坐部ヲ燕尾形トナシ銃床彈倉室上面ノ後方ニ裝
着シ「」レヲ以テ駐止ス

第四節 遊 底

第二十二 圓筒、抽筒子、擊鉄ヨリ成ル

第一款 圓 筒

第二十三 中央部ノ横孔ハ被筒ニ連續スヘキ圓筒駐栓ノ孔
ニシテ上面前方ニハ抽筒子室、下面ニハ蹴子ノ溝ヲ設ケ

中心孔ヲ擊貫空トス下面前後四條ノ溝ハ彈倉口縁部ニ對
ス。前因部トス後方内部ハ割肉シテ擊斃ノ磁罫ニ付シ後
端部ノ耳ニハ一ロレットトシテ刻シテ把持ニ便スルト共
ニ銃尾部ヲ覆フモノトス圓筒駐栓ニハ磁落ヲ防止スヘキ
圓筒駐止溝ト耳筒ヲ設ク

第二款 抽筒子

第二十四 脚部ノ燕尾ニヨリ圓筒ノ室ニ嵌嵌シ体ヲばねト
ナシ前下面ニ突筋ヲ設ケテ脱出ヲ防止シ頭部ニ爪ヲ成形
ス

第三款 擊 莖

第二十五 中火下面ノ段部ハ前進停止部ニシテ後方ノ跳割
部ハ圓筒駐栓孔トス火頭ニハ駐止ばねヲ挿入シアルヲ以

テ圓筒ニ嵌シタルトキ火頭カ包底面ヨリ後方ニ退避スル
ト只ニ圓筒駐栓孔ノ前側ハ圓筒駐栓ノ小溝ニ啣入シテ圓
筒駐栓ノ脱落ヲ防止ス

第五節 彈倉及附隨品

第二十六 彈倉体又受筒板、彈倉底、彈倉ばねヨリ成リ一
銃ニニ箇トシ内一箇ヲ豫備トス

第一款 彈倉体

第二十七 上端口部添側ノ縁部ヲ鍍部トナシ實包ノ保持ヲ
良好ナキシ、前方ヲ跳割シテ實包ノ通路トス左側ノ縱溝
ハ受筒板指板ノ通路トシ實包ノ嵌ヲ知ルニ便ス又方窓ハ
彈倉止ニ鉤スル部トス底部ノ兩準梁ハ彈倉底ノ嵌合用ト
ス

第二款 受筒板

第三十八 上面後端ノ突起部ハ實包底ヲ受ケ兼テ實包ヲ射蓋シタルトテ圓筒ヲ阻止シテ彈倉ニ空虛ヲ蓄クルモノトス
又筒板ハ受筒板ノ左側ニ裝着シ頭部ニハ「ロ」レツトト
ヲ附ス

第三款 彈倉底

第三十九 彈倉底ノ底部ニ挿入シ彈倉底板ヲ受ケ且其耳部ハ彈倉抽脱用ノ插ミトス

第四款 彈倉板

第三十 上端ヲ受筒板ニ下端ヲ彈倉止ニヨツテ支ヘラレ受筒板ヲ托上ス

第一章 爲品(附圖第三)

第三十一 懸紐、綯杖、囊ヨリ成ル

第一節 懸紐

第三十二 茶褐色ノ打紐ニシテ懸紐止ニ裝着ス

第二節 綯杖

第三十三 却片ヲ通マヘキ孔ヲ設ケ其先端ハ板状ニ他端ハ栓状ニ應用ス

第三節 囊及附隨品

第三十四 囊ノ肩草ヨリ成ル

第一款 囊

第三十五 内部一ハ銃、彈倉（赫信）ハ糊紙ヲ收容ス
外ハ側ニハ帶革ヲ施スハキ駐車又或革ヲ粘着スハキ半圓
環ヲ附ス

第二款 頁 革

第三十六 腹、半圓環ニ通シテ銃鉤ヲ以テ駐止シ背ヨリ懸
申スルニ用フ

第三章 彈藥及擬製彈（附圖第四）

第一節 彈 藥

第三十七 實包及紙函ヨリ成ル

第一款 實 包

第三十八 十四年式實包若ハ南部式大型拳銃實包ニシテ重

量一〇瓦カトシ裝藥ハ無煙粉銃藥ニ瓦三ツノ彈丸ハ函場
張形ニシテ白銅銃甲内ニ硬鉛ノ彈身ヲ挿實シ徑ハ九一ニ
長サ一五粒、彈重六瓦六トス

第二款 紙 函

第三十九 「ポール」紙函ニシテ外被ニハ「ハ」ロント紙
ヲ貼り蓋ニハ糸綿紙ヲ糊着シ開封ニ便ス 實包一五粒ヲ
收容ス

第二節 擬製彈

第四十 裝藥、空雷管、彈丸ヨリ成リ重量六瓦セトス

漆識トシテ裝藥ニ「ロ」レントレヲ彈丸ニ線溝ヲ刻シ空
雷管ヲ銅裝トシタル外實包ノモノニ同シ

第四節 各部ノ機能

第一節 彈倉ニ實包充漢、抽脱ハ附圖第八

第四十一 一發毎ニ實包ヲ壓下シ、指掛ノ壓下ノ相俟テ六發
六發ハ此際實包ヲ前方ヨリ挿入シ以テ四部ノ彈藥保持用
緣部ヲ開大、変形セシメサシ知ク注意スレテ要ス抽脱ス
ルニハ指掛ヲ壓下シ上位實包ヲ一發宛送り出シ前方ニ抽
出ス

第二節 彈倉挿入(附圖第八)

第四十二 彈倉ヲ銃床ニ挿入スルニハ右手ヲ以テ銃床ヲ握
リ左手ヲ以テ彈倉ヲ挿入シ其掌ヲ以テ十分之ヲ壓上ス然
ルトトハ彈倉ノ前面ハ彈倉止ノ角ヲ壓シテ之ヲ退避セシ
メ彈倉止鈎部ニ至レハ之ニ吻鈎シテ彈倉ヲ其位置ニ駐止
ス又安全子ハ彈倉ニ挿入ト共ニ其後背部ヲ壓シテ旋回セ

シハトルヲ以テ前嘴ハ引鉄ノ鈎部ヲ脱シ用心鉄ト等奇面迄
退避ス

第三節 第一發裝填(附圖第五)

第四十三 彈倉ニ實包ヲ充漢セルモノヲ銃床ニ込ハ圓筒狀
端ヲ摘ミテ之ヲ後方ニ停止スル迄引ケハ迄ツ圓筒ハ銃尾
ヲ閉鎖ノ儘銃身ト共ニ後坐ヲ始メ約六発後坐ノ後閉鎖子及
銃身ハ停止スルニ閉鎖子ハ下降シテ被筒トノ鈎止ヲ解ノヲ
以テ圓筒又被筒ハ後坐ヲ續ケ圓筒下面ニヨリ擊鉄ヲ後方
ニ回轉セシメ逆鈎ニ鈎セシム
圓筒ノ後退ニヨリ彈倉上部ニ空室ヲ生スレヤ今迄圓筒ニ
ヨリ筒ノ壓下セツレアリタル彈倉内實包列ハ彈倉口縁部ニヨ
リ發力ニヨリ總テ二并シ最上位ノモノハ彈倉口縁部ニヨ
リ更ハシラレ茲ニ於テ圓筒ヲ活漢ニ放ツトキハ復坐ハおノ

彈發力ニヨリ復位ヲ始メ圓筒包蓋部ノ下部ニヨリテ發上
位ノ一於テ柱シテ擊室ニ裝填シ抽筒子ハ擊發ニ鉤ス之ト
共ニ銃身ニ復位シ門子ハ落テ込ミ透底閉鎖シ銃筒又之ニ
併ニ復位ス

第四節 發射（附圖第六、第七）

第四十四 發填シ引鉄ヲ引ケハ引鉄鉤子ハ前方ニ回轉シ之
ニ吻鉤シアル逆鉤ハ其斜溝ニヨリ石方ニ移動スル結果逆
鉤ハ逆鉤曲周ニ回轉シ後端部ヲ下方ニ開キ擊鉄ノ後部ノ
外ツレルヲ以テばねヲ壓縮シテ後方ニ回轉シアリシ擊鉄
ハ前方ニ回轉シテ擊鉄ヲ打ち擊發セシム以テ後「ガス」壓
ニヨリ前部作動ヲ繰リ返サレルヲ以テ爾後單ニ引鉄ヲ引
キ直スコトニヨリ發射シ得ルモノトス此際引鉄ヲ引キメ
ル儘ニテモ連發トナラサルハ銃身ノ後坐ニヨリテ其下面

後方突起部ノ後端斜面ニヨリテ引鉄鉤子ヲ壓シテ逆鉤ノ
鉤止ヲ解カシムルヲ以テ逆鉤ハ復位ス故ニ又ニ引鉄ヲ繰
リテ逆鉤ニ吻鉤セシムルトキハ始メテ擊發ノ準備ヲナス
モノトス

第五節 射ヲ終リト空彈倉ノ離脱

第四十五 故障ニアラサル限り彈倉内實包ヲ射盡サレタリ
トキハ受筒板ノ後端部ニ圓筒ハ後坐ノ儘鉤止シ之ヲ知ラ
シム彈倉ハ彈倉止ヲ壓シツツ彈倉底板ヲ摘ミテ補出ス

第六節 安全裝置

第四十六 逆鉤ニ對スル安全栓ト引鉄ニ對スル安全子ト各
別ニニ様式ヲ備フ
安全法ハ之ヲ摘ミテ「安」字ニ一致セシムルトキ逆鉤ノ

同轉ヲ阻止スルヲ以テ逆鉤ト擊鉄トノ鉤子ヲ解カレルコトナキモ「安」字ニ一致セシムル、キハ逆鉤ト逆鐵シ之カ作用ヲ可能ナラシムルモノトス

安全子ハ兼室内ニ實包ヲ殘置シタル蓋彈倉ヲ離脱シタルトキ安全子バカニヨリ用心鉄内ニ突出シ引鉄ニ鉤スルヲ以テ其作用ヲ不能ナラシメ彈倉ヲ神入スレハ安全子ノ後背面ヲ壓シテ之ヲ同轉セシムルヲ以テ引鉄ニ對スル鉤ヲ解キ用心鉄ト等背面迄退避シテ安全装置ヲ解キ擊鉄準備姿勢トナルモノトス

第二篇 取 扱

第一章 分解、結合

第一節 普通分解、結合（附圖第八）

第四十七 普通分解ハ曰常手入並特別分解ヲ行フ際之ヲ行

フモノトス

第一款 普通分解

第四十八 普通分解ハ彈倉ヲ離脱シタル後次ノ如ク行フ

- 一 被 筒
- 二 遊 底
- 三 銃 身
- 四 閂 子

第四十九 被筒 右手ヲ以テ床把ヲ握リ左手ヲ以テ銃筒ノ閂子受部ヲ指シ指指ニ力ヲ入レテ之ヲ約四〇度後ニセシメテ其儘次テ右手ノ掌ト指指トノミニテ床把ヲ握リ他ノ四指ヲ以テ正方ヨリ被筒ヲ支持シ銃口ヲ下方ニ向ク如ク握リ杖ハ左指指頭ニテ擊鉄ノ後端ヲ壓シツツ食指頭ヲ以テ右方ヨリ閂子駐栓ヲ壓シ左方ニ筒出シ遊底ヲ後方ニ

注出シ被齒ヲ前方ニ離脱シ後坐ばねヲ抽出ス此際被齒ハ
門子ニ鉤スルヲ以テ銃口部ヲ壓シテ門子ヲ退避セシムハ

第五十 遊底 擊莖ヲ圓筒ノ空ヨリ後方ニ抽出シ擊莖火
環ヨリばねヲ抽出ス

第五十一 銃身 上方ニ抽出シ復坐ばねヲ前方ニ抽脱
ス

第五十二 門子 銃ヲ逆ニシテ上方ニ抽出ス

第二款 普通結合

第五十三 結合ハ擊銃力擊發姿勢ニアルトキハ指頭ヲ以テ
前方ヨリ壓シテ擊發準備姿勢(逆衝ニ鉤ス)トナシタル
後次ノ如ク行フ
一 遊底

二 門子

三 銃身

四 被齒

第五十四 遊底 擊莖ノ火頭部ニ駐止ばねヲ裝シ圓筒駐

檢孔ヲ内方ニ向ケ圓筒ノ擊莖孔ニ挿入シタル後銃身上ニ
檢方ヨリ裝着ス

第五十五 門子 門子室内ノ前方(門子上昇姿勢)ニ挿
入ス

第五十六 銃身 復坐ばねヲ銃口部ヨリ挿入シ門子ヲ

兩端起部間ニ嵌ミタル後銃身ヲ後坐ノ位置トナス

第五十七 被齒 復坐ばねヲ裝シ銃口部ヨリ挿入シ銃底

ノ溝内面ニ墜下スル如ク且圓筒駐檢孔方銃底ニアキテ
部後方位置ニ全体ヲ塊ハス遂後坐セシメタル後圓筒ト被
齒トノ一致セシメ左指頭ヲ以テ擊莖頭部ヲ壓シツツ圖

筒に栓ヲ被筒ト等行面迄挿入シタル後左手ヲ以テ圓筒後部ニ筒ト等手ヲ離シ正シク栓ヲ握リタル後圓筒ヲ放シ續テ彈倉ヲ挿入シ引鉄ヲ引ケ、結合ヲ終レセノトス

第二節 特別分解、結合

第五十八 特別分解ハ修理其他特ニ必要アル場合ニ於テ之ヲ行フモノトス

第一款 特別分解

第五十九 特別分解ハ普通分解ヲシタル後次ノ如ク行フ

- 一 袖筒子
- 二 引鉄
- 三 逆鉤
- 四 撃鉄

- 五 床把
- 六 安全栓
- 七 彈倉止又安全子
- 八 彈倉

第六十 袖筒子 圓筒ヲ握リ柄杖頭部ヲ以テ爪ニ掛ケ鉤部ヲ外ス程度ニ外方ニ壓シツツ前方ニ抽出ス

第六十一 引鉄 軸ヲ右方ニ抽出シば右ニ用ハ鉄ノ空ヨリ前方ニ抽出シば右ヲ離脱シタル後ば右ヲ離脱ス

第六十二 逆鉤 安全栓ヲ「火」字ニ一致セシメタル後軸ヲ上方ヨリ押シ上方ニ抽出シ之ヲ左方ニ抽脱ス

第六十三 撃鉄 撃發位置トナシタル後軸ヲ右方ニ抽脱シば右ト共ニ後方ニ抽出シば右ヲ離脱ス滑輪ハ軸ヲ抽脱シ

第六十四 床把 小ねガヲ螺脱シ僅ニ下端部ヲ托起シツ

ツ下方ニ離脱ス

第六十五 安全栓

押シテ左方ニ抽出ス

第六十六 彈倉止及安全子

左方ノ蓋螺又ハねヲ離脱シ
彈倉止ヲ右方ニ抽脱スレハ内方ノ安全子ハばねト共ニ彈
倉室ヨリ之ヲ抽出シハねヲ離脱ス

第六十七 彈倉

彈倉底ヲ後方ニ半抽出シタルトハ
彈倉ばねニ當テ彈倉底ヲ抽脱シ彈倉ばねヲ抽出ス
受筒板ハ溝下方ノ圓孔迄下ケ指掛ヲカ。度同轉シテ之ヲ
外方ニ抽脱シタル後下方ニ抽出ス

第二款 特別結合

第六十八

結合ハ概ネ分解ト反對順序ヲ以テ次ノ如ク行フ

一 彈倉

二 安全子又彈倉止

三 安全栓

四 爪把

五 擊針

六 送針

七 引鉄

八 抽筒子

第六十九 彈倉

受筒板ノ後方ニ位置スル如ク彈
倉一彈ノ指掛ノ孔ニ彈倉溝ノ圓孔ニ一致セシメ指掛
針ノシテ。受筒板ヲ口部ニ進メ次ニ彈倉ばねヲ彈倉形炭
ト同様ノ向きニ突入シハねノ頭部ヲ指掛頭ニテ壓入シ
ツ彈倉底カ。後方ヨリ嵌装ス

第七十 安全子又彈倉止

安全子ハねヲ安全子ニ嵌シ之
ニ下方ニ向ケ彈倉室ヨリ入レ銃床ノ軸孔ニ一致セシメ彈

停止ヲ表ハシ見鉤部ヲ鉤床ノ室ニ挿合セシメタル後左側
方ヨリばねヲ嵌シ蓋環ヲ螺着シ固打止ス

第七十一

安全栓

把部ヲ下方ニシ軸部ヲ鉤床ノ軸孔ニ

十分挿入シタル後把部ヲ前方ニ九〇度回轉シ「火」字ニ
一致駐止セシム

第七十一

擊鉄

擊鉄ばねヲ擊鉄ニ接シタル後ばねヲ發

方ニ位置スル如ク鉤床ノ室ニ裝シ軸孔ヲ一致セシメ軸ヲ
挿入ス

第七十三

逆鉤

擊鉄ヲ擊鉄位置トナシマル後駐止ばね

ヲ逆鉤前頭部ニ裝シ鉤床ノ室ニ裝シ軸孔ヲ一致セシメ上
方ヨリ軸ヲ挿入シ軸ノ上面ヲ鉤床上面ト同高ナラシム

第七十四

引鉄

鉤子ばねヲ引鉄ノ鉤子室ニ嵌メ鉤子ヲ

壓入シツツ耳部ノ輪ヲ鉤子ノ側面ニ一致スル迄挿入ス
第七十五 抽筒子 脚ノ懸尾ヲ圓筒ノ懸尾溝ニ一致セシ

× 爪部ヲ納メ外方ニ開キツツ壓入シ内方ノ凸部ヲ圓筒ノ
室ニ鉤セシム

第二章 取扱上ノ注意

第七十六

一般的注意事項ノ如シ

一 構造、機能ヲ熟知セマシテ箇所ニ於テ之ヲ取扱フハ

輕小ナル本銃トシテ誤心危險ナルト共ニ命中精度ノ良

好ヲ期シ難キモノトス

二 分解、結合ハ射撃ノ動機ハ細心ノ注意ヲ以テ丁寧ニ

沈着ナル態キニテ行フヲ要ス

三 寒地ニ於テル使用上ノ注意ハ一般小銃、機關銃ニ準

シ銃ノ保温、使用油ノ選定トニヨリ満足ナル機能ヲ望

ミ得ラルルモノトス

第七十七

操縦方リ注意スヘキ事項左ノ如シ

- 一 圖筒ヲ摘ムニテ後方ニ引キタルトキ銃筒ノ復坐不足約一五旋ノ際ニテ停止スルモハ復坐ばねノ結合ヲ誤リ前後反ハ向ナルニヨリ即令銃ノ深キ部ニヨリ復坐ばねヲ受ケル如クナスヲ要ス
- 二 實包ノ有無ニ拘ラス引鉄ヲ引ク場合ニハ必ス危険ナキ地上又ハ目標方向ナルヲ要ス
- 三 射撃中止ノ場合ニハ常ニ實包一發兼室ニ殘存スルヲ以テ安全栓ヲ「安全」字ニ改セシムルト共ニ彈倉ヲ抽脱シテ安全子ヲ引鉄ニ鉤セシムルヘシ
- 四 異物附着若ハ損傷セル實包又ハ変形著シキ擬製彈ハ之ヲ使用スヘカラス
- 五 床把ヲ握リシ際拇指頭ヲ以テ彈倉止ノ頭部ヲ壓セサルコトニ注意スヘシ
- 六 手動裝填スルニハ圖筒ヲ十カ後方ニ引キ一撃ニ之ヲ

放ツヘシ

- 七 被筒ヲ握リテ之ヲ後坐セシムル場合ニ於テハ照準頂ヲ保持サシタリトス着色剥脱スルハ一リ
- 八 射撃ノ為に銃筒スルニハ顔面ヨリ約二〇釐以上離隔スヘシ
- 九 彈倉内實包又ハ擬製彈ヲ抽出スルニハ圖筒ヲ連續に振ビシナルコトナシ必ス彈倉ヲ離脱シテ抽出スルヲ要ス
- 第十 射撃ニ方リ注意スヘキ事項並ニ如シ
 - 一 裝填時ニ銃筒ノ蓋ヲ開キハ機蓋はねノ液損ニ際シノ吻筒不確實ニ因ル銃筒ノ加蓋部ニ被筒カ液突シアルモノモ亦然リ
 - 二 彈倉ノ落下ハ蓋蓋止鉤部ノ磨滅又ハばね裝填シアルカ時蓋止ヲ拇指ニテ壓シツツアルカニ因ル

三 圓筒後坐不天ニシテ復坐ば板蓋トノ間ニ隙ヲ生シテ

引クハカラス
ルモノハ完全ニ復坐ビシメタル後ニアラリレハ引鉄ヲ

四 教頭機能不良ニシテ突込ヲ生スルモノハ彈倉ばねノ
衰弱、口部ノ変形又ハ彈倉脱力遊底後退不十分ナル
ニ因ル

第三篇 係 存

第一章 手 入

第一節 日常手入

第七十九 日常手入ハ通常普通分解ヲ行ヒ左ノ如ク實施ス

ハシ

一 銃身 乾布ヲ纏繞セル沈火筒ハ柄杓ヲ銃尾ヨリ腔

中ニ挿入シ舊油ヲ拭除シタル後「スピンドル」油ヲ塗
布ス

二 圓筒又銃筒 銃身ニ準ス

三 各種バネ 作片ヲ線ニ巻付ケばねヲ放回シツツ之

ヲ拭淨シタル後「スピンドル」油ヲ塗布ス

四 其他ノ銃部ハ乾布ヲ以テ拭淨シ舊油汚垢ヲ除去シタ

ル後輪部、浮込部等ニハ稍々多量ニ其他ノ部分ニハ極

メテ薄ク「スピンドル」油ヲ塗布ス

照屋又照門ヲ強腐セサル如ク注意スルヲ要ス

第八十 射撃前ニ慈慈納ニ手入ヲ行フニハ圓筒ヲ引キ彈倉

ニ鈎メンタル後銃口部ヨリ腔中及藥室ヲ銃尾部被筒

出窓ヨリ藥室ヲ拭淨シテ塗油スヘシ此際布片、綿切等ヲ

腔中、藥室ニ殘留セシメサルヲ要ス

第二節 射撃後ノ手入
第八十一 射撃後ノ手入ハ日常手入ニ準スルノ外左ノ如ク

實施スハシ

- 一 火藥「カス」後ケタル部位即チ腔中、藥室、擊莖ノ頭部、圓筒頭部ノ内外、波筒ノ内面、銃床上部内面又彈倉ノ内部ハ特ニ入念ニ拭淨シ要スレハ細紗濾液スハ腔中油ニ浸シ刷毛類ヲ以テ洗滌ス
- ニ 腔中藥室ニ附着セル濾渣ハ一回ノ手入ニテ完全ニ除去スレコト困難ナル場合多キヲ以テ要スレハ洗滌手入後腔内ニ稍々多量ノ腔中油ヲ塗布シ數時間乃至十數時間放置シ濾渣ヲ淨出セシメタル後布片ヲ以テ除去スヘシ而シテ布片汚損ノ狀況ヲ顧慮シ目的ヲ達スル迄此方法ヲ反覆スルモノトス

第三章 終納間ノ手入

第八十二 終納間ノ手入ハ日常手入ニ準スルノ外必要ニ應シテハ特別分解ヲ行ヒ實施スハシ

第二章 終納

- 第八十三 銃ノ終納ニ方リテハ手入ヲ完了セル後長期ニハ「ペトロラ」スル、短縮ニハ「パラフィン」レ、一時ニハ「ソルベント」ル油ヲ塗布スルヲ通常トス
- 第八十四 機坐ばね、擊莖ばねノ交換ヲ命、為シテ分解シテ銃床ニ殘置、機筒上ニ横臥又ハ照蓋、照門ヲ上方ニシテ托架ニ取付クルヲ可トス
- 止ムヲ標ス結合、機座ニ收メテ終納スル場合ニハ塗油シタル後「パシマイン」紙ニテ包ムヲ可トス

第三章 検査

第八十五 検査ニ於テハ特ニ左ノ件ニ注意スヘシ

一 手 入

①

②

③

④

⑤

⑥

(1) 射撃且前腔中薬室ヲ拭淨シアリヤ

塵芥、土砂ハハ旧油ノ膠着ハ銃ノ命中精度ヲ害シ且該部ヲ損傷シ膨脹ノ因トナス

(2) 銃底ノ拭淨適當ナリヤ

楊蝕ロシメ命中精度ヲ低下ス

(3) 銃口部ヲ傾倒シアラマヤ

命中精度ヲ低下ス

(4) 圓筒擊針被衝、銃床ノ手入十分ナリヤ

後後運動、潤滑ヲ阻キ延チ發射、擊發機能ヲ害ス

(5) 閥子室ニ汚垢沁滲シアラスヤ

閥子ノ下降ヲ妨ク

(6) 各軸部、滑走部ノ施注適當ナリヤ

二 結 合

(1) 結合セル液筒ト圓筒トヲ反對方向ニ相引ントキ圓筒切レラシシ時當シ且ズ強トナルコトアリ

筒ニ遊隙ナキヤ

(1) 銃身、液筒、圓筒、閥子ニ復坐不戻ナキヤ

各部ノ反起、弛リ、手入不戻ニ復坐せられ、過弱ニヨル

(2) 照準動搖スルモノ又ハ標線ノ一致セサルモノナキ照準坐部燕尾部ノ磨滅ニヨル

(3) 照準價及照門ニ打痕、磨耗ノ刻跡ヲモレモノナキ照準ヲ妨ケ命中精度ヲ害ス

(4) 閥子受被、弛ミナキヤ

脱落スルニ至ル燕尾溝ヲ緊メ要スレハ目打止ス

(5) 擊發軸、引鉄軸ノ弛ミ若ハ折損ナキヤ

擊發機能ヲ害ス

(6) 安全栓変形ナキヤ

安全作用不能トナル

(7) 逆鉤ニ弛ミナキヤ

引鉄ノ長途スハ早落トナル

(8) 圓筒擊針ノ弛ミナキヤ

脱落スルカ若ハ銃床ニ當リテ後復坐ヲ害ス

(9) 逆鉤ヲ擊鐵ニ鉤シアラスヤ

擊鐵はねヲ損傷ス

(10) 液筒後坐停止部ニズレナキヤ

閥子ノ磨滅又ハ復坐ばねノ損傷ニヨル

三 分 解

(イ) 腔中、鑿室ニ發端、銷着、銜蝕又ハ疵痕ナキヤ

(ロ) 銜身ノ門子室ニ反起ナキヤ

(ハ) 無減、楔形ノ銜池ミナキヤ

(ニ) 後面底部ノ斜溝磨滅シテアラスヤ

(ヘ) 門子ノ磨滅穴損ナキヤ

(ホ) 復坐ばねノ變換、変形、折損ナキヤ

(コ) 復坐ばねノ變換、変形ナキヤ

(カ) 圓筒ノ包底面ニ反起、銜蝕又ハ磨滅ヲ生シ若ハ擊
針孔ヲ腐蝕開大シテアラスヤ又下面ニ擊針ノ打痕甚シ
カラスヤ

(キ) 隙子及彈倉ノ通路ニ反起ナキヤ

(ク) 抽筒子孔部反起又ハ缺損シ脚部ノ彈性喪損シテア
ラスヤ

(ケ) 凡ノ先探銃身ニ擊突シテアラスヤ

(コ) 擊針ハ曲リク擊針部折損シテアラスヤ

(カ) 擊針駐止ばねノ変形、折損ナキヤ

(キ) 逆鉤部ノ磨滅、変形、ばねノ喪失、変形ナキヤ

(ク) 軸ハ弛ミ上方ニ離シテアラスヤ

(ケ) 被筒ノ門子磨滅又後止部ニ反起、磨滅ナキヤ

(コ) 擊針ノ逆鉤部ニ反起、磨滅ナキヤ軸ノ磨滅、折損
折損ナキヤ

(カ) 引鉄鉤子ノ磨滅、折損若ハばねノ損傷ナキヤ引鉄逆鉤ニ鉤スル
引鉄用ヲ不能ナラシム

(キ) ばね反軸ノ変換、切損ナキヤ

(ク) 安全子銃器蓋シテアラスヤ

(ケ) 彈倉蓋子ノ蓋螺ノ欠損、ばねノ喪失又ハ鉤部磨滅、彈倉ヲ脱落ス

命中精度、劣シ撃突切レノ原因トナル

門子ノ運動ヲ不整ナラシム且銃身動能ヲ助長ス引鉄
鉤子ニ對スル作用不確實トナリ連發不能トナルコトア
リ

彈簧不確實トナリ銃尾ノ早期閉込トナリ危險ナリ

圓筒ノ磨滅不良、早期閉込トナル

復坐ばねノ伸縮ヲ妨ケ復坐不足ヲ惹起ス

彈簧穴破、突込、不發、棘突切ヲ生マシム

復坐不足ヲ惹起ス

抽筒不良トナル

折損ス

不發トナル

擊針ヲ包底面ニ突込セシメ閉鎖ト同時ニ發火セシム

圓筒駐栓ヲ脱落セシム

擊針トナリ安全裝置不能トナル

被筒ノ後復坐ニ阻害ス

被筒ノ閉鎖不確實トナル又停止部ノ反起ニヨル磨滅ハ
復坐ばねノ喪失ノ結果トス

加ス

被筒下段トナル

又彈簧機能ヲ害シ連發トナルコトアリ

安全装置ヲ不能ナラシム

シアラスマヤ

- (レ) 銃身、被筒、銃口、銃床、銃床ノヒリ込ミ不良、復座
- (ル) 弾丸ノヒリ込ミニズレナキヤ
- (ロ) 床板、巻取、銃ノ取扱、指掛、銃床ナキヤ
- (リ) 弾倉、弾倉ノ結合方法正シキヤ或形、復座ナキヤ
- (リ) 口部、巻取、弾倉、銃子、銃部ノ腐蝕、銃筒ノ変形、

銃身、被筒ノ腐蝕、銃口ノ後復座ヲ阻害ス
 突込ヲ生ズ
 弾倉、巻取ノ機能ヲ害ス
 銃筒ノ上界機能ノ不良ヲ生ジ、突込ヲ生ズ
 弾倉、把持ノ改良ノ結果突込ヲ生ズ
 弾倉ノ腐蝕ヲ生ズ

四 機能

- (イ) 弾倉機能不良
- (ロ) 安全栓、機能不良
- (ハ) 銃身、被筒、銃口、銃筒、閉鎖不良

引鉄、銃子ノ変形、取扱ばねノ巻取、銃筒後部斜溝、引
 鉄、銃子ノ銃部腐蝕ニヨル
 軸部ノ腐蝕、把部ノ変形、弾性巻取ニヨル
 復座ばね過弱、銃口ノヒリ、復座ばね腐敗ノ変形、銃
 床滑走部ノ反起、復座ばね腐敗ノ変形、弾倉ばね過強

(ニ) 閉鎖不良

銃筒ノ閉鎖ト、ヒリ込ミ部手ノ不良ニヨル

銃筒ノヒリ込ミ、取扱、取扱、ばね過弱、銃筒過次ニテ閉鎖

ニズレタルニヨル

後座不良ニヨル

銃子頭部ノ変形、弛ミニヨル

復座ばね過強、復座ばね過弱、変形、銃子ノヒリ

、銃床滑走部ノ反起、撃鉄、銃筒ト、ヒリ、弾倉ノ

過強、銃筒ト閉鎖ト、ヒリ込ミ部、手ノ不良ニヨル

引鉄、銃部ノ巻取、弾倉、銃子ノ腐蝕ニヨル

弾倉、銃子ノ銃部ノ腐蝕、ばねノ巻取、巻取ノ不良ニヨル

銃筒ノ腐蝕ニヨル

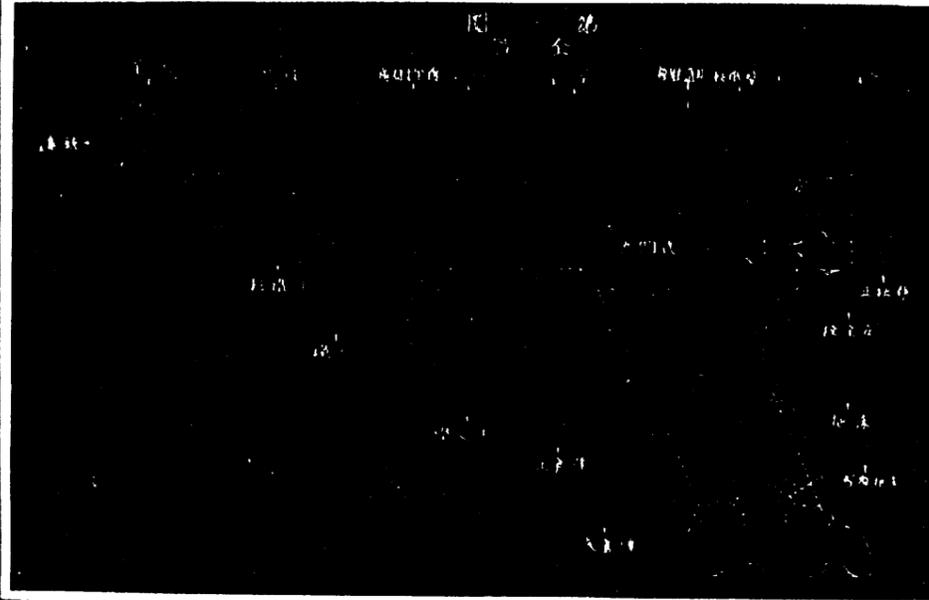
ばね、過弱、巻取、撃鉄ノ変形、銃口部ノ変形、銃

筒ニヨル

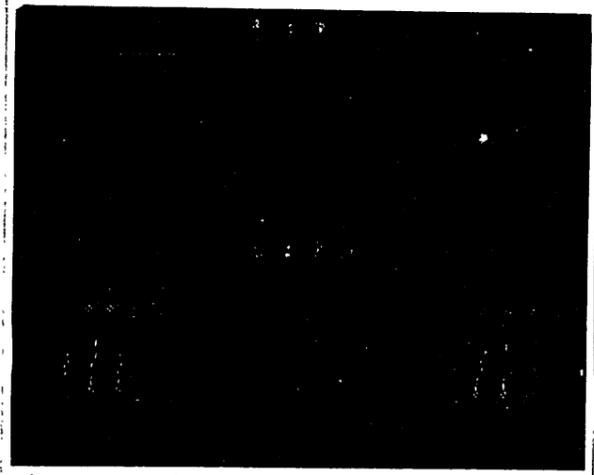
弾倉ノ弾倉用不良、銃筒、銃床ノヒリ込ミ不良、復座



一第圖付



附圖第二其ノ一

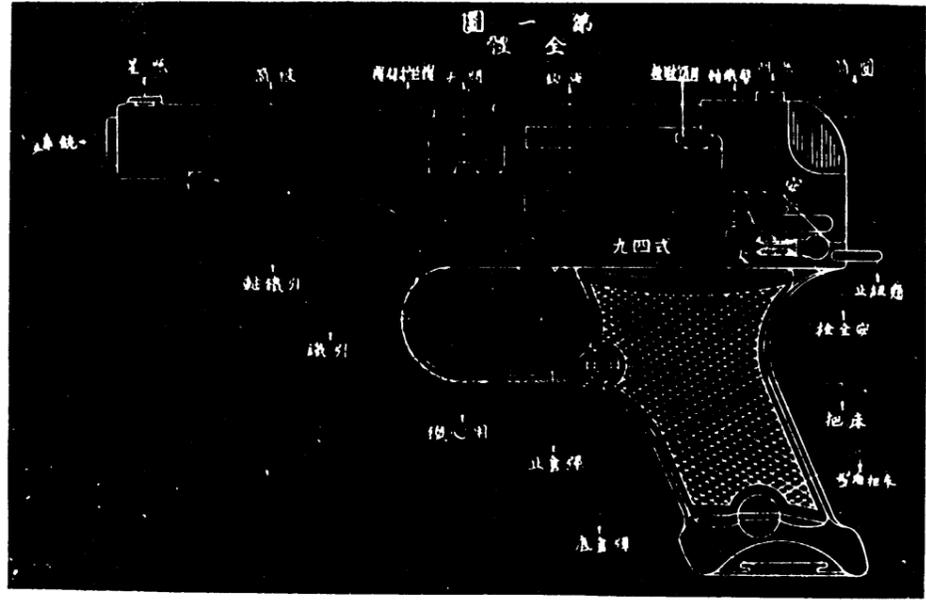


九四式拳銃取扱法終

ば名遊碼ニヨル 閉鎖不良、復裝ばね過強ニヨル後派
不遊ニヨル

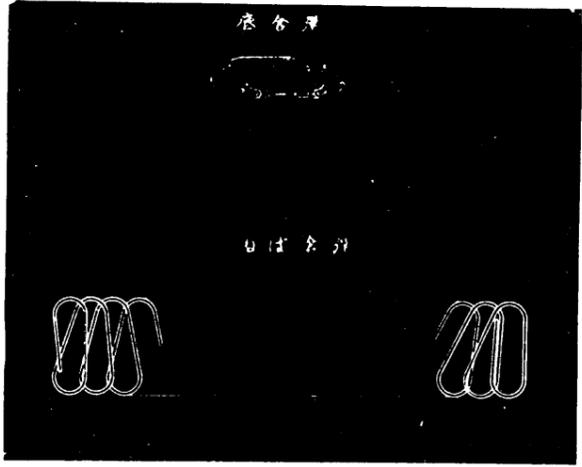


- 第四圖



四
五
六
七
八
九
十

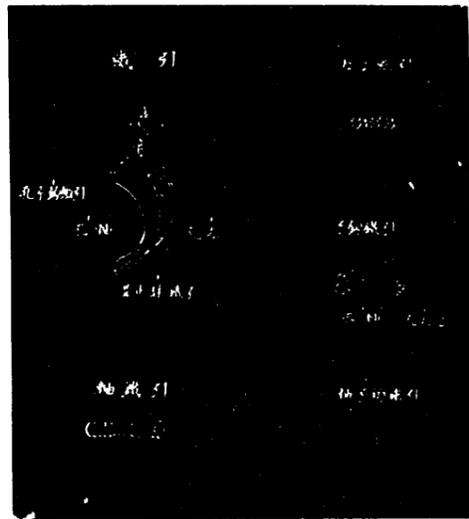
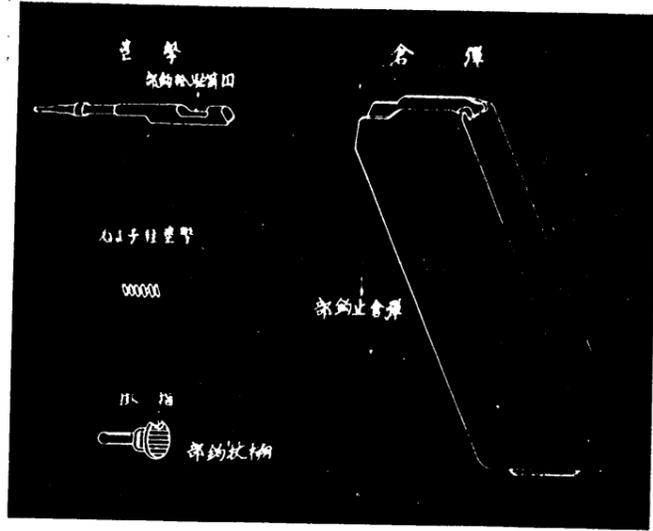
其
一



九四式手槍
圖一
圖二

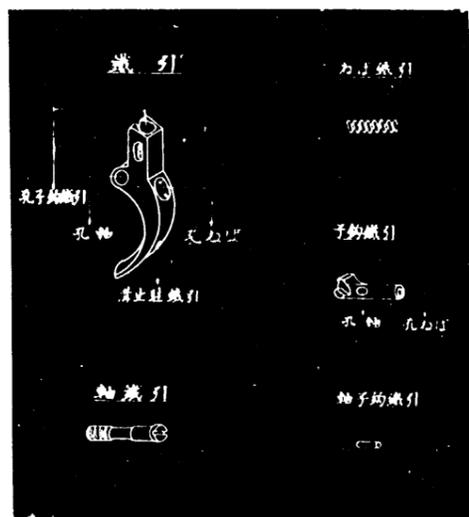
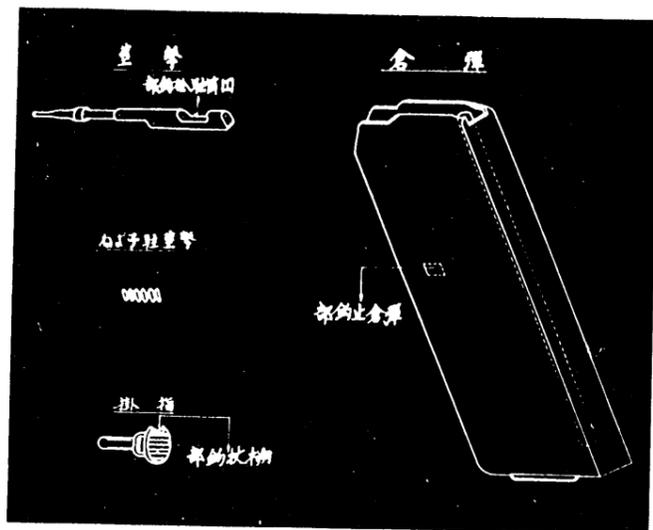


附圖第二共二



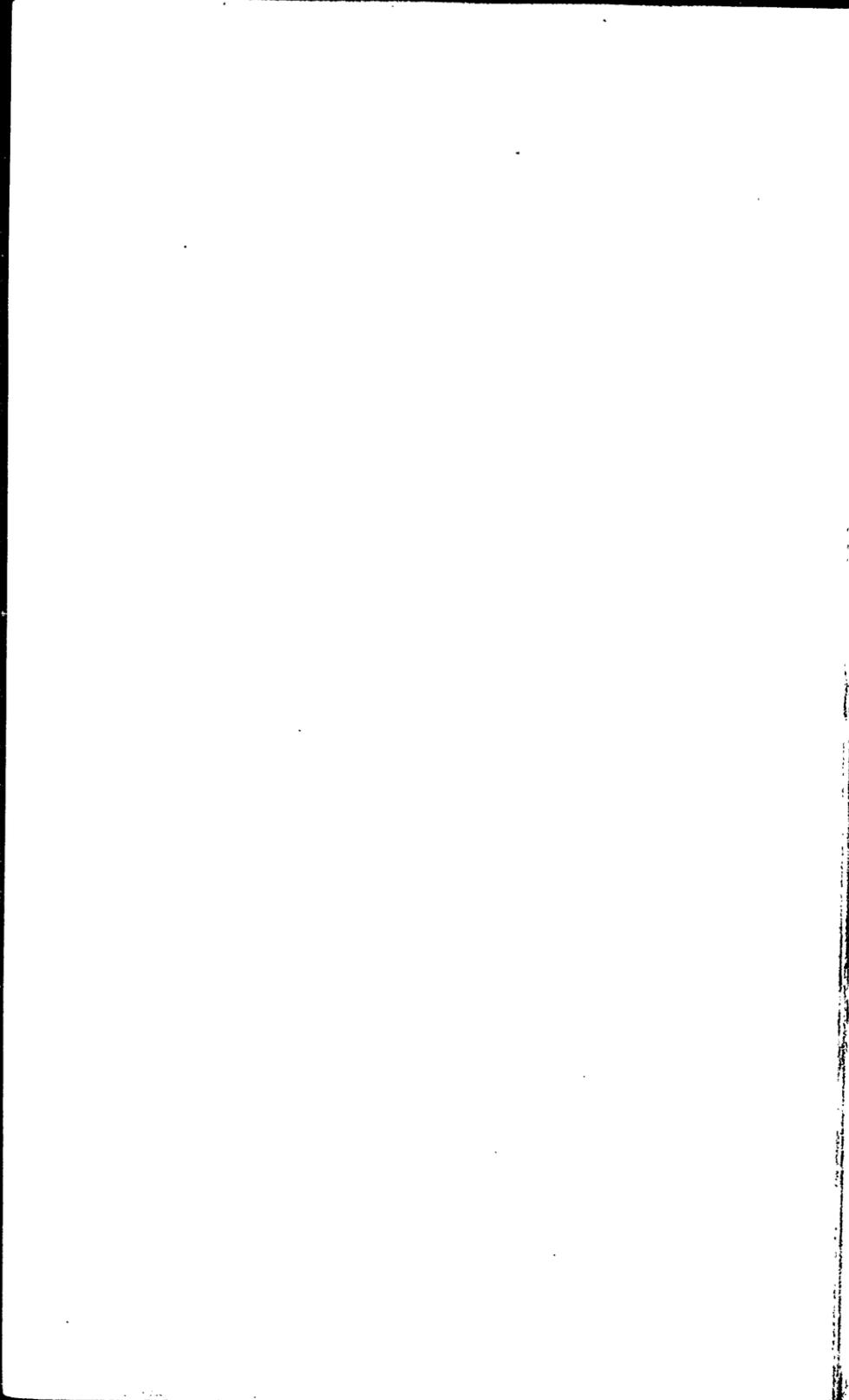
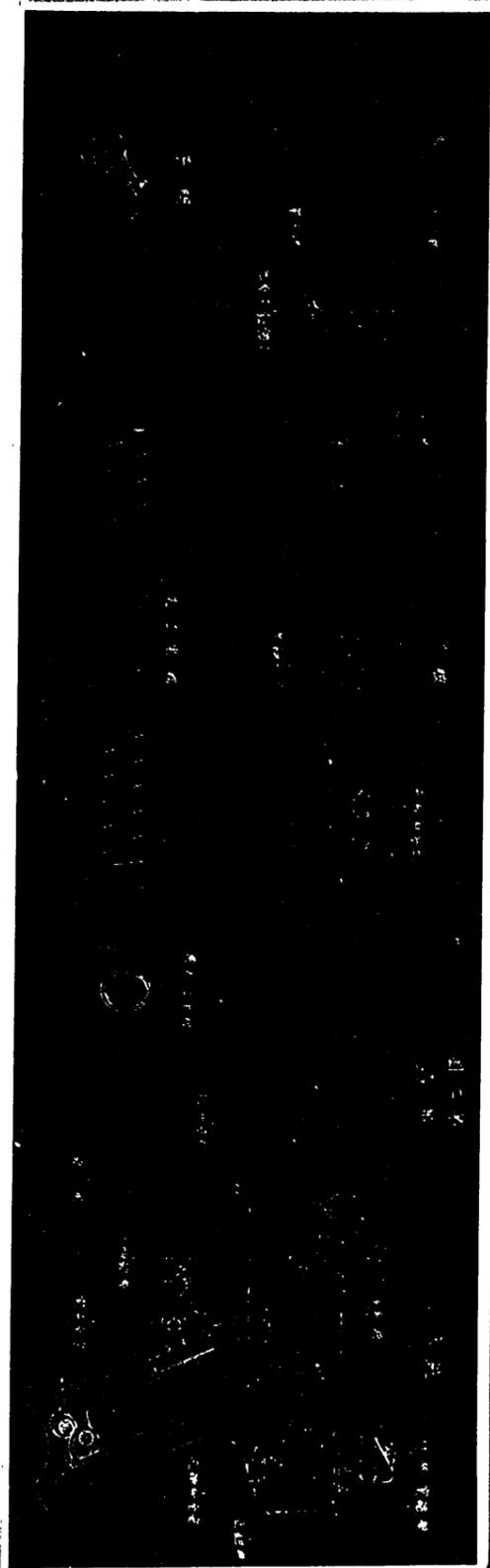


附圖第一三六二



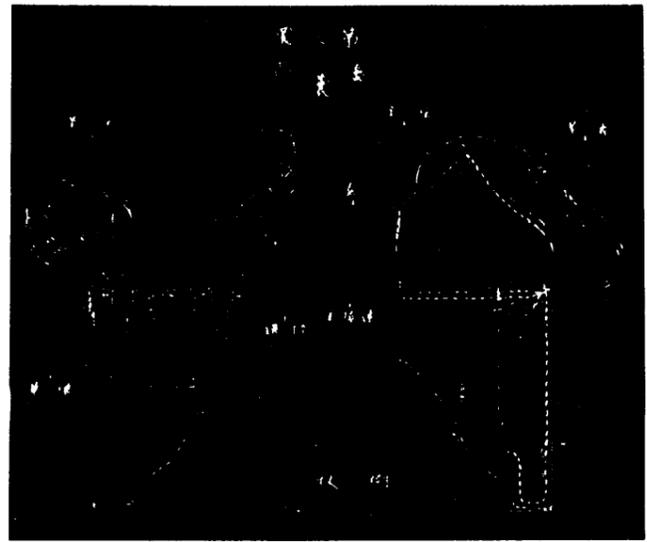


附圖第二其ノ四

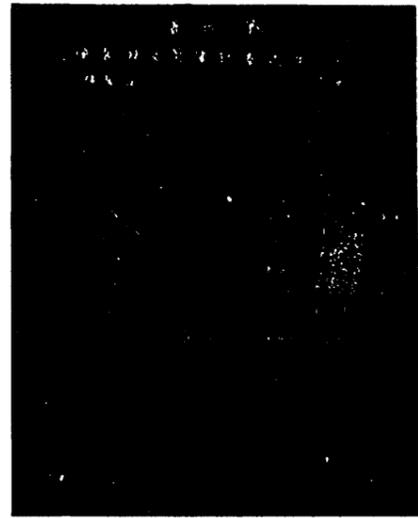




附圖第三

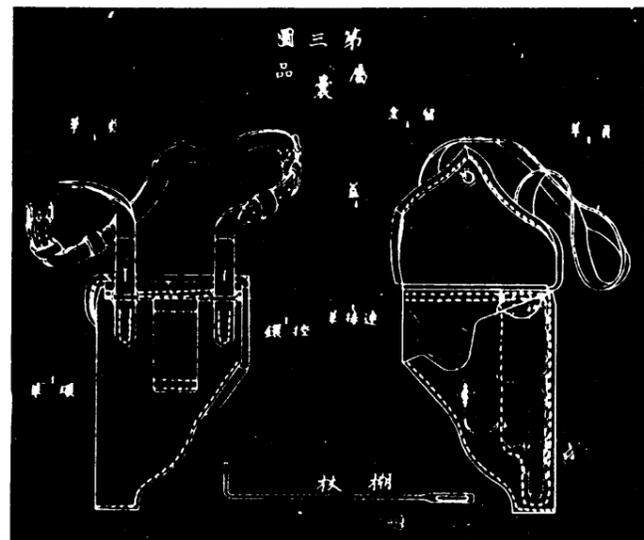


附圖第四

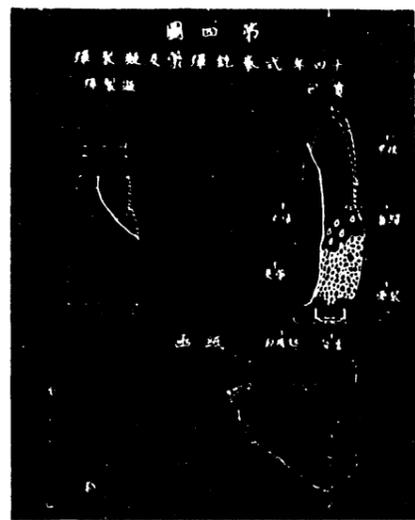




圖三第

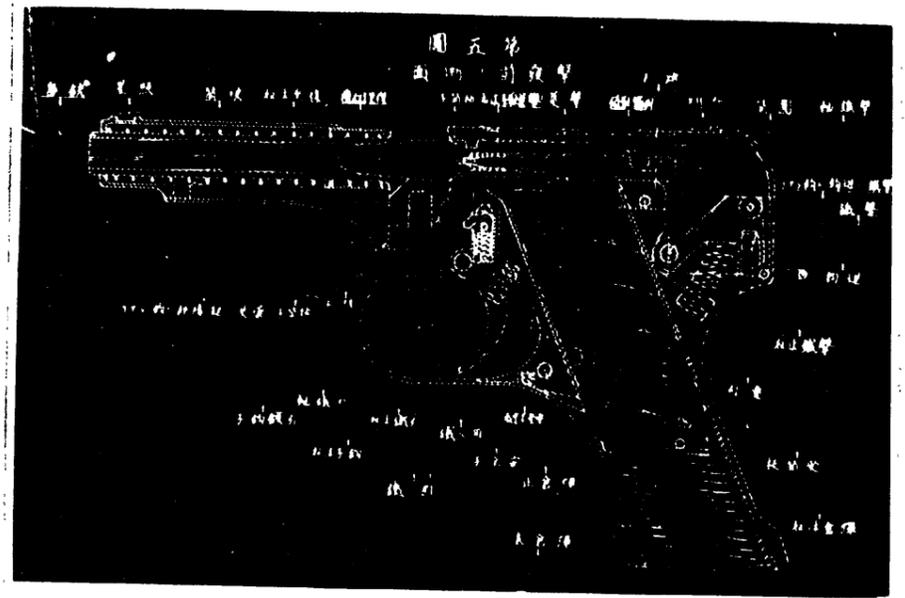


圖四第

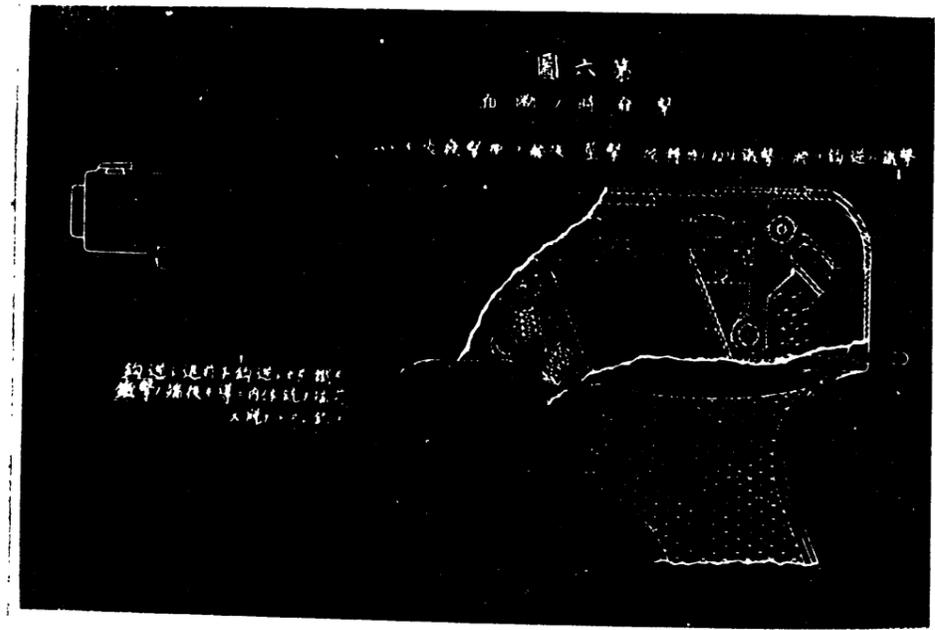




五第圖附

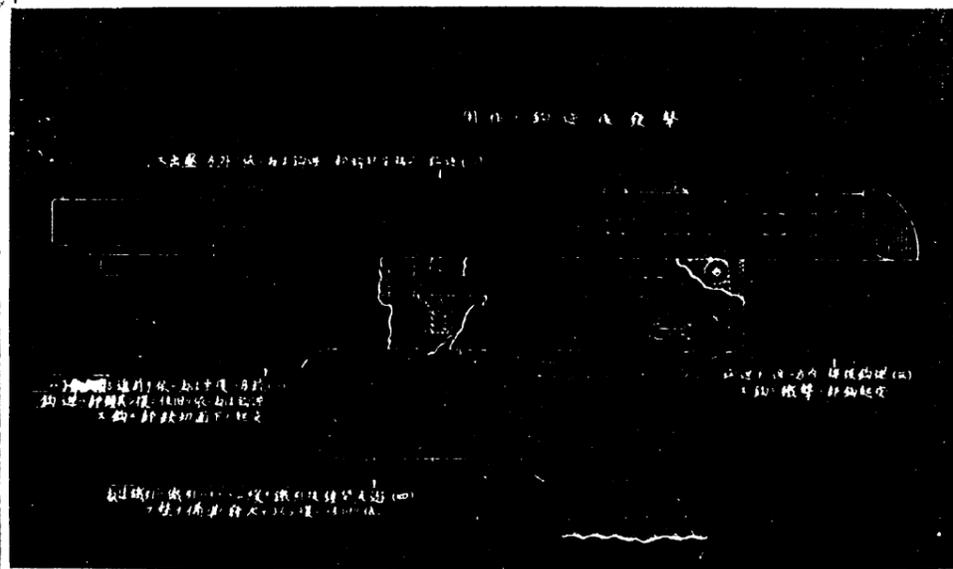
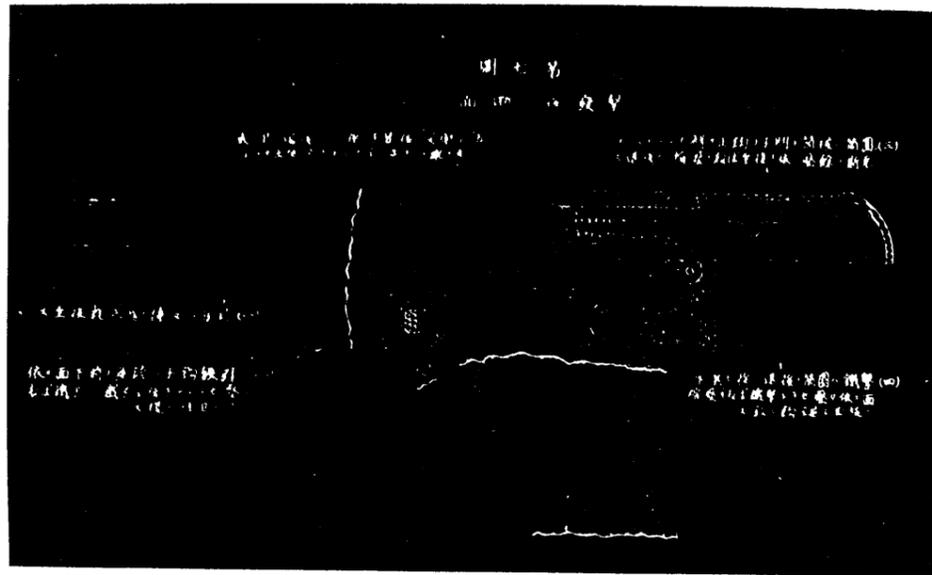


六第圖附





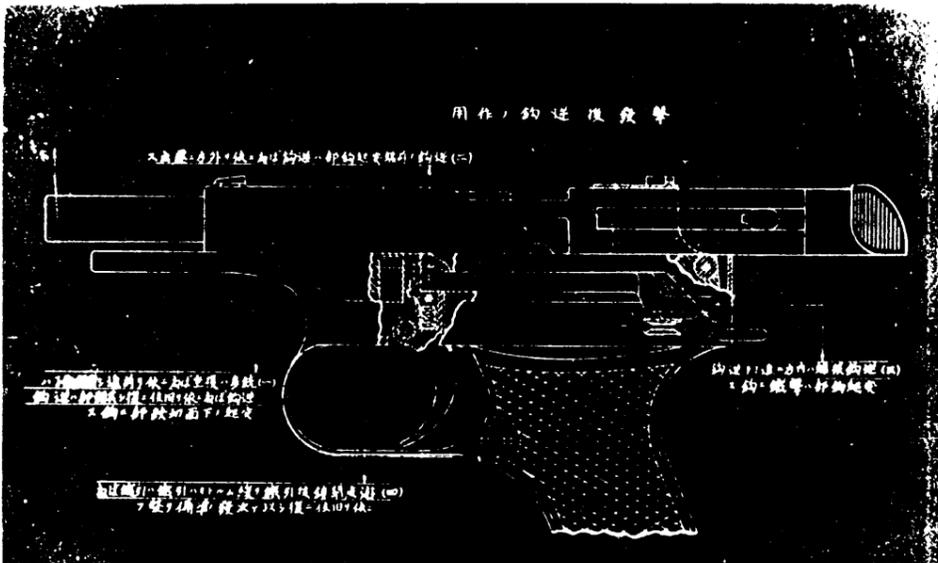
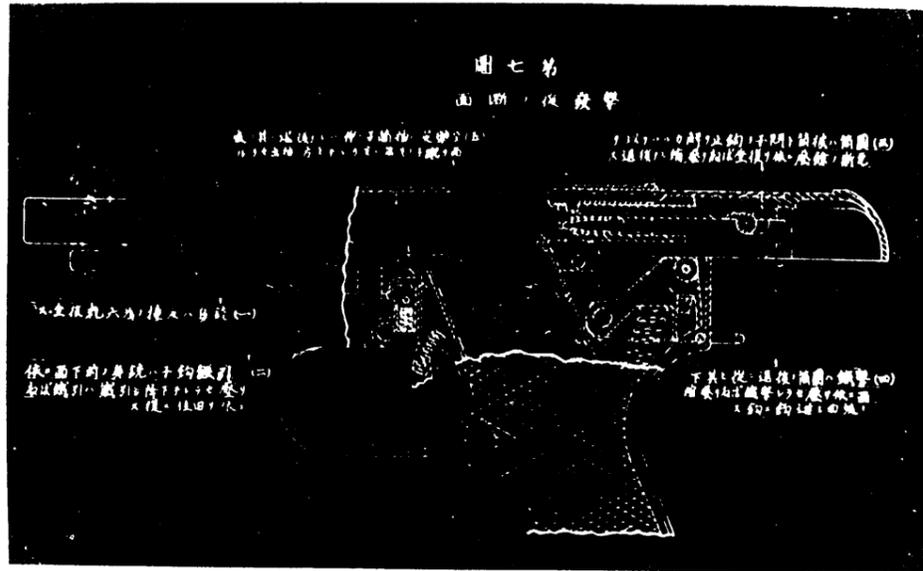
七第圖附

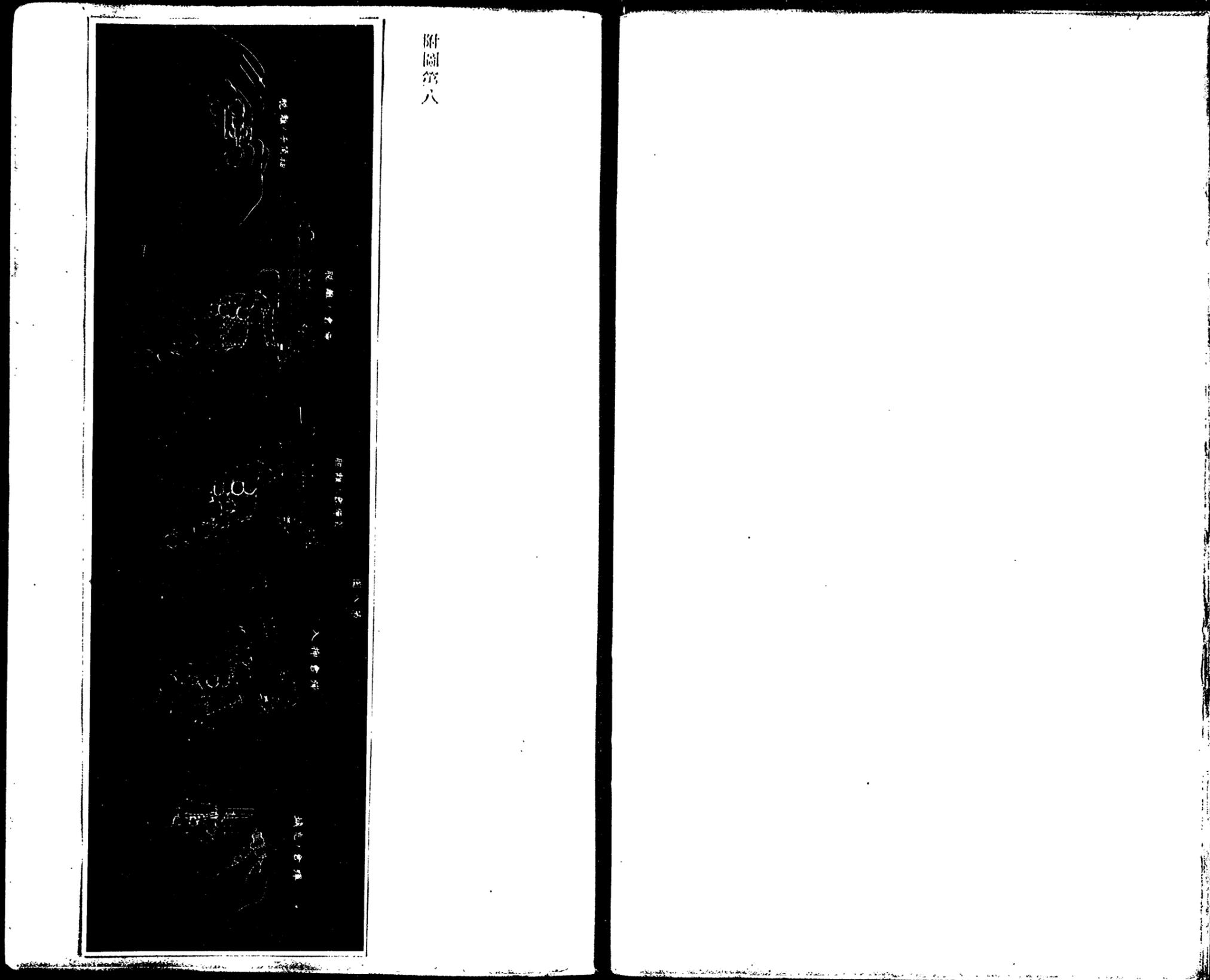




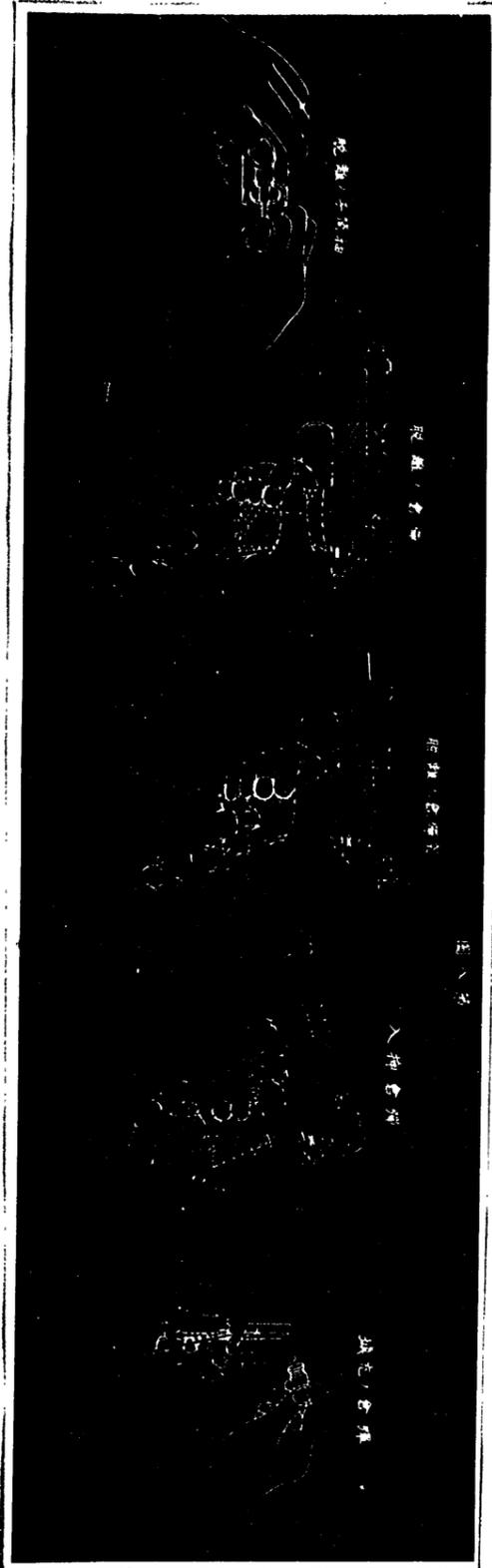
七第

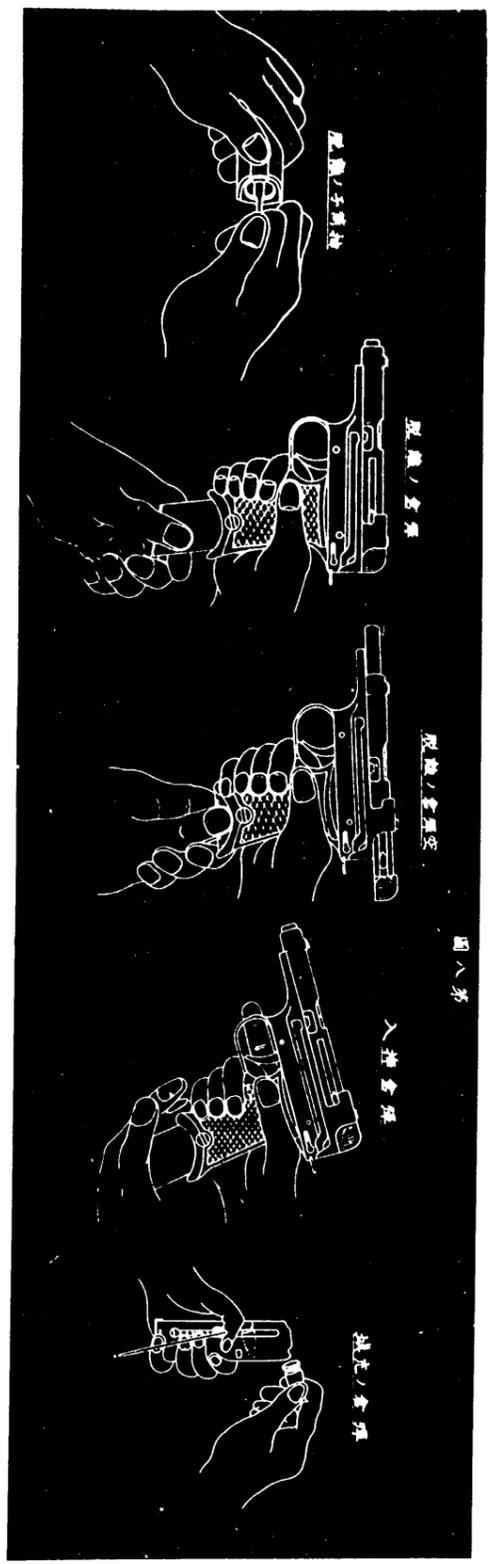
圖七第
面圖、後發擊





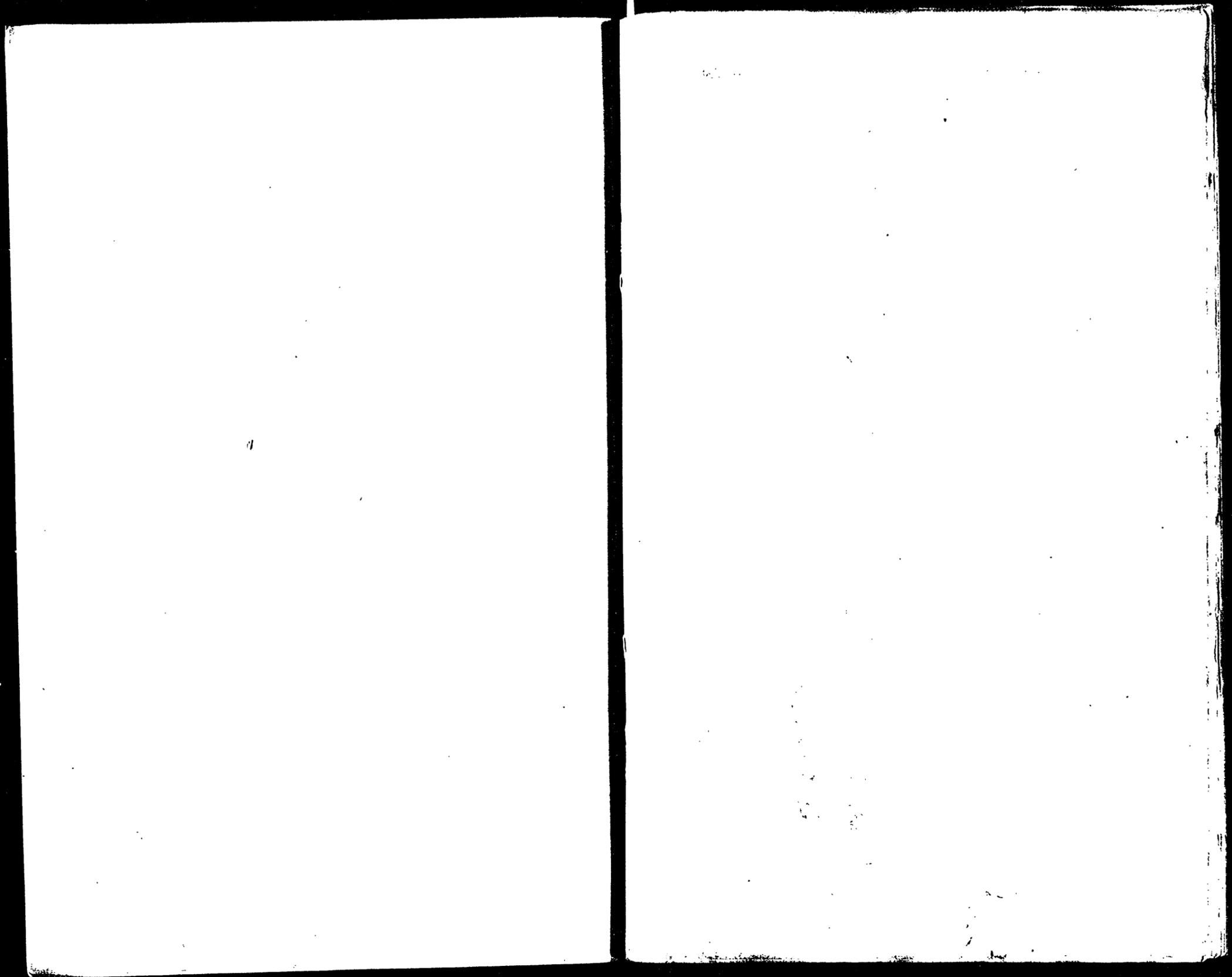
附圖第八

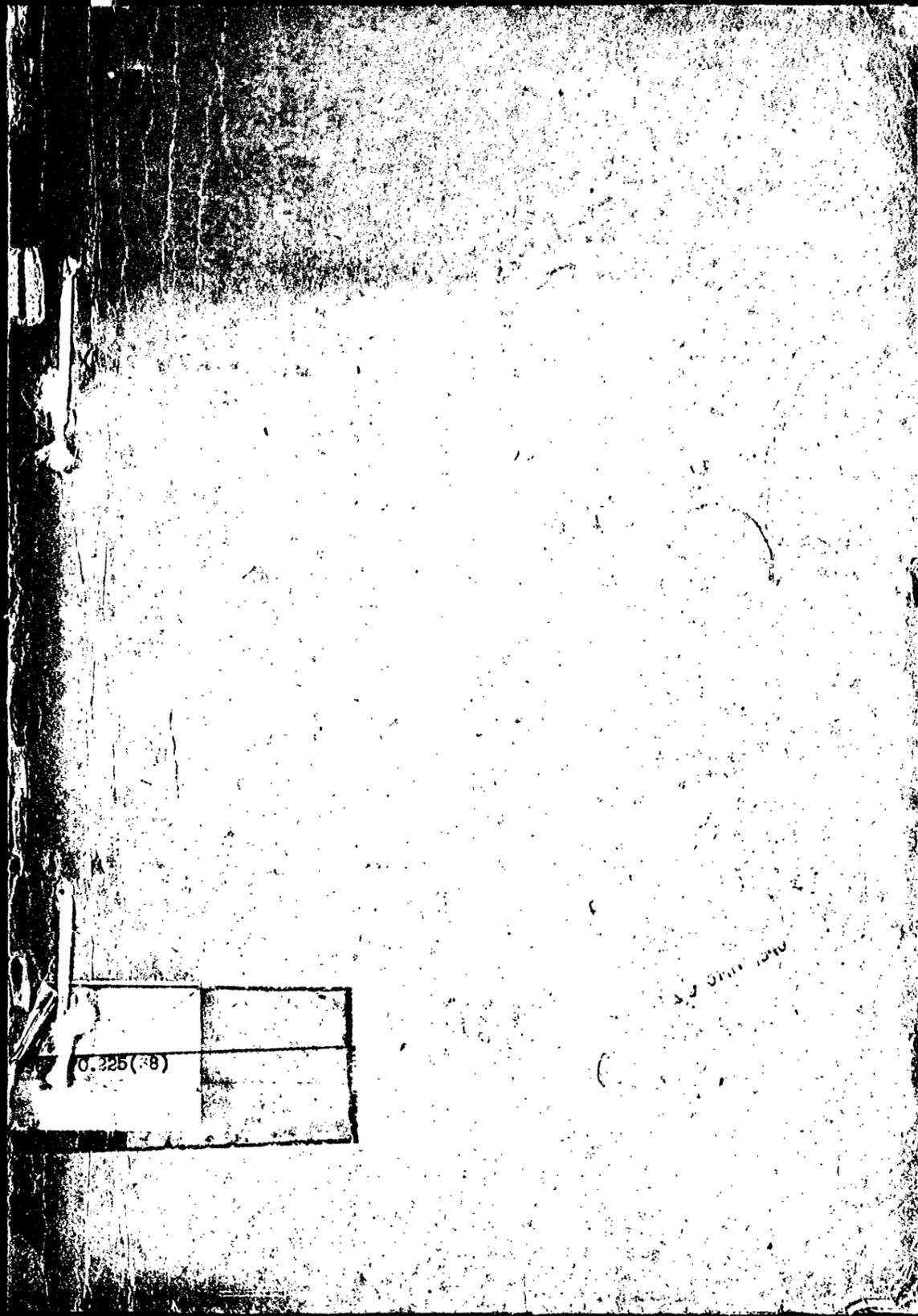




図八 拳

指の握り
親指の握り
人差し指の握り
中指の握り





0.225 (38)